

No. 146

# さい議会だより



来年の運動会は新しいグラウンドで（佐井村保育所大運動会）【関連記事：5 ページ】

6月定例会

トド被害に支援策 .... 2 ページ

大停電の原因はサル .... 7 ページ

臨時交付金で課題解消 ... 8, 9 ページ

平成二十一年第二回定例会は、六月十一日から十五日までの五日間の会期で行なわれました。

村長から報告二件、補正予算案四件、条例案二件、その他三件の計十一件、議員から陳情の採択に伴う意見書案一件が提出され、それぞれ原案どおり決しました。

# トドによる漁網被害 漁業者を村が支援

～一般会計補正予算案を原案どおり可決～

さまざまな事情により制度資金の借り入れができない漁業者の救済措置として、村が佐井村漁業協同組合に「トド漁網被害対策資金」780万円を貸し付けします。無利子ですが、5年以内に償還することが条件となっています。7名が借り入れを希望しており、理事会の承認を経て漁協が対象者へ貸し付けます。



強化網導入でサケ・タラの水揚げ増が期待される

また、トドによる漁網被害を受けた漁業者が、強化網を購入するため青森県信用漁業協同組合連合会から借り入れる「沿岸漁業推進資金」の利子2.85%を村が補助します。8名が借り入れを希望しており、26万2千円の利子補給を見込んでいます。

## 賛成討論

### 川畠勲夫議員

厳しい財政の中、一般会計補正予算において、懸案でありましたトドの強化網に関する予算が計上されています。福浦・牛滝地区には若い後継者が多いということを考えると、このような行政の対応は、漁業者にとっては頼もしいものと感じています。

同僚議員からも、今回対応できるのは一部だという意見もあったことから、1回だけで終わることなく、今後とも要望があった際には、できる限り対応していただきたいと考えます。

非常に漁業者にとっては力になる対策ということで、補正予算案に賛成いたします。

風間浦村役場



村  
長

協働のむらづくり  
推進していく

行政、議会、住民が連携することで、なお一層協働のむらづくりを進めていきたい。

川畠議員  
六月七日、風間浦村がむつ市との合併の賛否を問う住民投票を実施した。横浜村長は、合併に反対する票が多かったことを受け、合併を断念した。

風間浦村は当村と同じく単独での行政運営を推進することになるが、村長はどう考えているか。

住民のために  
努力すべき

村  
長  
協力して  
取り組んでいく  
共通する行政課題も多い  
ため、情報を共有し、協力して取り組んでいく。

**ともに協力し  
むらづくりを**

風間浦村住民投票 合併反対が多数

## 総括質疑



小型定置網の引き上げ作業



岩場で休むトド

**坂井議員** 福浦漁港では、越波による係留中の船の破損事故などがあつたが、整備によつて静穩度が高まるなどの効果が出ている。「完成港」となる前に地元漁業者との連携を密にし、お互いが納得できるような整備をすべきである。

**坂井議員** 平成二十三年度を計画の最終年度としている。

**坂井議員** 平成23年度 完成予定

**村長** 完成前に十分な整備を

**坂井議員** 漁業者の要望を取り入れる

**坂井議員** 福浦地区のみなさんからいは、静穩度などが改善しているとの評価をいただいており整備を進める。

# 漁網被害者支援は継続すべき

**坂井議員**

トドによる漁網被害対策として、強化網導入に対する貸付金七百八十万円、利子補給として約二十六万円が計上されている。その財源は。

**財政調整基金で対応する**

**村長** 財政調整基金を繰り入れして対応する。

**水産振興基金ではないのか**

**坂井議員** 目的基金である水産振興基金で対応することになった経緯は。

**活用できる漁業者限定されるため**

**村長** 当初は水産振興基金の活

いたが、財政調整基金で対応することになった経緯は。

**最善策と評価事業の継続は**

用を考えていたが、特定の漁業者しか活用できないという問題点があった。そのため、村が可能な範囲で対象漁業者を支援することとした。

いと考える。これらの事業は継続していくのか。

**可能な限り継続する**

**村長** 漁業協同組合と十分協議し、可能な限り対応する考え方である。

**支援体制の構築が必要**

**坂井議員** 今後、県・県信漁連・漁協・村が連携した支援体制の構築が必要ではないか。

**漁協と連携し支援を求めていく**

**村長** 漁協との連携を深め、県・国に支援を要請していく。

## 福浦漁港の整備は



港内の静穩度が高まった福浦漁港

## 広報さい発行経費の増額

# 村民のための広報づくりを

**川岸委員**  
広報さい発行に関する経費として、旅費が計上されているのはなぜか。

**参事・総務課長**  
村内外の人々を広報で紹介

**川岸委員**  
新たな企画取り組みに期待

新しいことに取り組む担当者の意気込みを評価する。良い企画なので、継続してほしい。

**より親しみやすい「広報さい」に**

**参事・総務課長**  
村内外で活躍する方々を紹介するコーナーを企画しており、その取材に要する旅費二十六万五千円を計上した。



中学生の活躍を伝える広報さい（平成21年7月号）

本合同常任委員会は、去る三月九日、佐井村漁業協同組合から平成二十年度の決算状況について説明を受けた。

田中組合長、七戸参事から、収益全体で五億五千二百万円、計画対比で九十二パーセント、計画より四千七百万円の減収。当期剰余金は一千二百四十一万円の赤字決算であり、特に加工事業が振るわなかつたことが報告された。

また、内藤加工部長から、サケをはじめとした原材料の高騰や、売り上げの大半を占める生活協同組合との加工製品の価格の折り合いが計画どおりにならなかつたこと、さらには経済不況からくる消費者の購買意欲の減退などが加工部門の減収の要因であることが説明された。

このような報告に対し委員からは、生協一辺倒ではなく、他の取引先も開拓していくべきであるなどの意

見が出された。また、毎年漁網や水揚げに数千万円という大きな被害をもたらしているトド被害対策についても、行政並びに漁協に対し、強化網の早期導入について要望がなされた。

今定例会補正予算において、漁協への貸し付けや利子の補てんが提案されたことは大きな前進であり、漁業者にとつても励みになると考えられる。

今年はタラの資源が回復し、近年にない水揚げとなつたが、ヤリイカやコウナゴ漁が不漁となっていることから、今後の漁と漁協の経営努力に期待し、総務文教・産業建設合同常任委員会活動報告とします。

総務文教・産業建設合同常任委員会活動報告

## トド被害対策で今後の漁に期待



1月初旬、大漁となったタラ（牛滝漁港）

## 予算・条例等審査特別委員会



笑顔でゴール（6月27日大運動会）

**保育所**

### 指定管理者制度を導入

## 保護者の不安を解消すべき

**川岸委員**

自治創造プラン、集中改革プランに基づいて保育所に指定管理者制度を導入することは。」

保育所に民間の活力を取り入れる

**村長**

保護者が安心して子どもたちを保育所に預け、より良い環境で育していくために、民間の活力・ノウハウを取り入れる。

### 応募の条件は

**川岸委員**

指定管理者の応募条件は。

### 説明会を開催する

**住民福祉課長**

保育所の移転・新築、それに伴う指定管理者制度の導入については保護者懇談会で説明しているが、改めて説明会を開催する予定である。

1千万円あまり  
経費節減も

より良いサービス  
提供できる法人

**住民福祉課長**

送迎バスに関する経費を除き、平成二十年度実績と同規模の入所者数で試算すると、約一千三百万円の経費節減が可能だと考えている。

十分な説明が必要  
保護者への

**川岸委員**

入所手続き、保育料に関する事務は今までどおり村が行なうようだが、保護者が不安にならないよう十分な説明が必要ではないか。

**川岸委員**

「あすなろ」に指定管理者制度を導入した場合、財政的なメリットが得られるか。

村の歳出抑制につながる

住民福祉課長

平成二十年度の委託費、約一千万円の内訳は生活支援ハウスの人件費、あすな

る全体の光熱水費などの維持管理費が主なものである。業務委託の実績により佐井村社会福祉協議会を指定管理者に考えており、試算はしていないが経費の節減が図られるものと見込んでいる。

## 高齢者生活福祉センターあすなろ

### 来年度から指定管理者が運営



毎週水曜日の「お達者クラブ」  
(あすなろ交流室)

6月定例会



竹内修議員

竹内議員  
県が導入したドクターへ  
りには、県民誰もが期待を  
持っている。

医療機関から離れている  
当村では、ドクターへりに  
よる救急醫療を受ける機会  
が多く見込まれるが、離着  
陸場の選定はどうなつてい  
るか。

村長  
利用可能場所は  
佐井中・佐井漁港  
電線など  
取り除いては  
竹内議員  
電線などの障害物を取り  
除けば、長後・福浦・牛滝  
地区でも離着陸が可能にな  
れるのではないか。

電線などがヘリの離着陸の障害に  
(長後小中学校跡地)

村長  
地形的な  
問題もある  
消防分署と協議し、柔軟  
性を持つて対応するのも一  
つの方法であると考える。  
ただし、特有のV字型地形  
が障害になる部分もあり、  
対応は難しい。

村長  
消防分署から離れた地域  
では、ヘリコプターの離着  
陸を誘導する人員を確保で  
きるか。

村長  
防災計画を整備するうえ  
でも必要となるので、調査  
し、対応したい。

竹内議員  
ヘリの離着陸  
誘導する人員は  
調査のうえ  
対応する  
消防分署から離れた地域  
では、ヘリコプターの離着  
陸を誘導する人員を確保で  
きるか。

**ドクターへり  
離着陸場を確保すべき**

# オフサイトセンターの誘致は

大間原子力発電所



工事の様子を見学（4月20日）

竹内議員

大間原子力発電所の建設  
工事が着々と進む中、有機

的連携の確保のため、オフ  
サイトセンターの誘致を県  
に要望できないか。

竹内議員

原子力防災計画の修正に  
伴い、複合災害に備えた代  
替施設の確保の必要性が新  
聞などで報道されている。  
このような施設の誘致はど  
うか。

代替施設の確保は

大間町が指定を  
受けると推察

村長  
原子力発電所を有する大  
間町が誘致を求めており、  
国の指定を受けるものと推  
察される。村としては、電

源開発㈱をはじめ関係機関  
に対し、関連施設や関連企  
業の誘致を要請している。

村長

新たな施設  
誘致は困難

代替施設は既存の施設を  
利用することを前提として  
おり、新たな施設の誘致  
は、現時点では非常に難し  
いものと考えている。

6月定例会

# サルが引き起こした前代未聞の大停電 早急な対策を



東北電力による現地での説明（6月12日）

竹内議員

六月二日、ニホンザルが

原因で約七千世帯の大停電が発生した。農作物に留まっていたサルによる被害が、経済的な混乱にまで発展した。今回の停電により、村は電力会社と対策を協議したのか。

め、検討委員会を発足するとしている。

村長

電力会社が

対応している

侵入したサル

把握できたか

竹内議員

変電所に侵入したサル

は、村が調査している群れのサルではないのか。

サルの増えすぎ  
県・国に訴える

村長

停電の原因には、サルが増えすぎていることも関係していると考えている。保護計画が現地に合っているか、県・国に再考を求めたい。

公共施設での被災の状況は

竹内議員

今回の停電では、役場およびアルサスに多大な影響があったと聞くが。

役場・アルサス利用者から苦情

村長

発電機の容量が小さいため、役場では住民票などの交付が受けられない、アルサスではトイレが真っ暗で困るなどの苦情があった。

早急に改善すべき

竹内議員

村の防災の要である役場、観光の拠点であるアルサスがこのような状態に陥ったことは、非常に残念である。

早急に改善すべきではないか。



有刺鉄線が巻かれた侵入防止用フェンス



対策以前の状態

参事・総務課長

地域活性化・経済危機対策臨時交付金での整備を計画しているところである。

臨時交付金での整備を計画

施設の整備を再検討する

村長

常に危機管理意識を持つて対策にあたり、施設の整備についても再度検討する。

6月定例会



工藤明道議員

## 国の臨時交付金 有効活用で課題を解消せよ

対策臨時交付金では、アルサスのバリアフリー化、役場庁舎の電気設備改修を計画している。

工藤議員  
国の平成二十一年度補正予算に伴う「地域活性化・公共投資臨時交付金」、「地域活性化・経済危機対策臨時交付金」とは。

交付総額は  
1億円以上

行政改革室長

「地域活性化・公共投資臨時交付金」は、経済危機対策として地方自治体が実施する事業の負担額に応じ、交付される。

「地域活性化・経済危機対策臨時交付金」は、地球温暖化・少子高齢化社会への対応、その他将来に向けたきめ細かな事業などを積極的に実施できるよう交付されるものであり、村へは一億五千七百万円交付される予定である。

主要課題に  
どう活用

工藤議員

村の主要課題に、これら  
の交付金をどのように活用  
するのか。

効率的・効果的な  
事業を推進

村長

経済の活性化と財政の負担軽減につながるものと歓迎するとともに、二度とない機会を活かし、将来に貯蓄の財産を残すことなく効率的、効果的な事業の推進を図つていかなければならぬと考えている。

道路改良を実施

産業建設課長

役場前から佐井漁港へ通じる村道糠森臨港線、川目と磯谷地区を結ぶ村道川磯線の道路改良事業、古佐井山浄水場の簡易水道施設整備を計画している。

e-LTAXを導入

住民福祉課長

村民税に係わる手続きを、インターネットを利用して行なうシステム「エルタックス」の導入を計画している。

地デジ対応で  
地デジの視聴は  
計画していない

工藤議員

ブロードバンド基盤整備で光ケーブルを布設した場合、各家庭でデジタル放送を受信したり、携帯電話の通信不能を解消したりできることか。

参事・総務課長  
ブロードバンド基盤を整備

学校用パソコンを  
更新

参事・総務課長  
「地域活性化・公共投資臨時交付金」でブロードバンド基盤整備事業を計画している。

教育次長  
管内小中学校のテレビを



ウニまつり会場で紹介された  
双向方向告知システム（手前）

### 【地域活性化・公共投資臨時交付金】

経済危機対策における公共事業等の追加に伴う地方負担の軽減を図り、地方公共団体が国の施策と歩調を合わせ、地域における公共投資を円滑に実施することができるよう、国が補正予算債による対応に加え、各地方自治体の負担額等に応じて配分します。

**国の平成21年度補正予算計上額  
1兆3790億円**

- ◆村が計画している事業
  - ・ブロードバンド基盤整備事業

## 6月定例会

**工藤議員**  
長年の懸案である川目地区の側溝（川磯線沿い）は、三法交付金事業で整備するときれながら未整備となつていて。今回の交付金事業で整備されることを反映して、みんなに喜ばれるよう整備すべきである。

**長年の懸案**  
**解消に喜び**



長年改良を求めてきた側溝の改良工事が実施される見込み  
(川目地区)

コモに貸し出すことで、川目地区の通信不能を解消する計画である。

**携帯電話**

**川目での利用は**

**工藤議員**

川目地区での携帯電話は、どの範囲まで使用できるか。

**広域で使えるよう調査してもらう**

**参事・総務課長**

二十五mの鉄塔を建てた場合、平坦地で半径三kmまで対応できるとのことで、できる限り広範囲で使えるよう正式な調査をしてもらおう。

**住民が満足する工事を行なう**

**産業建設課長**

むらづくり基本条例に基づき、事業への理解を深めていただきたいうえで、みなさんが納得できるような工事を実施していく。

**工事の早期発注と円滑な推進を**

**工藤議員**

この交付金は、村にとって千載一遇のチャンスである。少子高齢化が進む中、住民が何を望み、何を必要とする。

としているのかを十分把握するとともに、公共工事の早期発注と事業の円滑な推進をお願いする。

**精一杯取り組む**

**村長**

この恩恵をしっかりと住民に還元するため、住民と共に汗を流し、その思いを受け止められるよう一生懸命に取り組む。

## 【地域活性化・経済危機対策臨時交付金】

地方公共団体が地球温暖化、少子高齢化社会への対応、安心・安全の実現、その他将来に向けた地域の実情に応じるきめ細かな事業を積極的に実施できるよう、国が創設したものです。

**国の平成21年度補正予算計上額 1兆円**

◆村が計画している事業（総事業費：約1億5700万円）

- ①役場公用車の更新事業
- ②公共施設地上デジタル放送対策事業
- ③津軽海峡文化館アルサス改修事業
- ④役場庁舎の電気設備等改修事業
- ⑤災害救助用機材整備事業
- ⑥村道糠森臨港線舗装改良事業
- ⑦村道川磯線道路改良事業
- ⑧佐井地区簡易水道施設改良事業
- ⑨e L T A X（エルタックス）導入事業
- ⑩教育用パソコン更新事業
- ⑪小中学校地上デジタル放送対策事業
- ⑫佐井小学校暖房設備改修事業



破損したフェンスを改良（佐井地区簡易水道施設）

※これらは計画段階であり、さらに精査することになっています。

6月定例会

## 追跡質問

## クマによる皮はぎ対策は

川畠議員

野生動物による被害の対策を求めてきたが、最近、クマによる林业被害についての新聞報道があつた。村の対応はどうか。



クマによって皮がはがされたスギの木

試験的にスギに  
テープを巻く

村長

クマによるスギなどの皮はぎ被害には、縄やテープを人間の背丈ほどの高さに

より良い対応を  
求めていく

巻くことが有効との報道がされた。下北地域県民局が、六月中に磯谷地区でこの方法を実施することになつてている。

村内の  
被害の状況は

川畠議員

磯谷地区の三割、川目地区の九割の木に被害があると報告されているが、ほかの地区の状況は把握している。

原因の究明が必要

川畠議員

クマが木の皮をはぐ原因を突き止め、被害をなくすために、行動範囲にカメラを設置できないか。

県に要望している

川畠議員

県に要望しているが、具体的な話はされていない。

モデル地区のみ  
調査している

川畠議員

磯谷と川目をモデル地区として調査した結果であり、ほかの地区を調査することは考えていない。

期待できるか

川畠議員

磯谷と川目をモデル地区として調査した結果であり、ほかの地区を調査することは考えていない。

期待できるか

具体的な成果は  
把握していない

産業建設課長  
具体的な成果は把握していない

川畠議員

縄やテープを巻きつけることにより、どの程度の効果が期待されるのか。

テープの効果

川畠議員

磯谷と川目をモデル地区として調査した結果であり、ほかの地区を調査することは考えていない。

期待できるか

いないので、佐井村分収造林組合連合会とともに研修しながら事業を進めていく。

## 陳情書の審査結果

6月定例会に提出された2件の陳情書は産業建設常任委員会に付託し、審査しました。

審査の結果、ともに採択とし、意見書案も全会一致で可決されたため、関係各機関に意見書を提出しました。

## 【陳情書】

- ミニマムアクセス米の輸入見直しに関する陳情（産業建設常任委員会）・・・採択
- りんごの価格安定対策を求める陳情書 （産業建設常任委員会）・・・採択

## 【意見書案】

- ◇ミニマムアクセス米の輸入見直しに関する意見書（案）・・・・・・・・可決
- ◇りんごの価格安定対策を求める意見書（案）・・・・・・・・可決

「陳情書」は希望や意見を政治・行政に反映させるための手段として、誰でも議会に提出することができます。

陳情書または請願書の提出については、議会事務局へお問合せください。

# 6月の期末・勤勉手当 減額を決定

5月28日の臨時会では、5月1日の人事院勧告に基づき、特別職・一般職員の平成21年6月に支給される期末・勤勉手当を減額する条例案を、それぞれ全会一致で可決しました。

	職名	手当の名称	改正前	改正後の支給率	減額分
特別職	村長	期末手当	報酬月額 × 1.60月分	1.45月分	0.15月分
	副村長				
	教育長				
	議会議員				
一般	職員	期末手当	給料月額等 × 1.40月分	1.25月分	0.15月分
		勤勉手当	給料月額 × 0.75月分	0.70月分	0.05月分

※さらに、村独自で継続している財政対策として、特別職は5%、一般職員は3%、それぞれ減額のうえ支給されています。

※副村長は現在、欠員となっています。

## レポート

# 課題箇所の視察を実施

産業建設常任委員会 委員長 宮川 尚

六月十二日、午後一時三十分より全議員による現場視察を行なった。

### ①佐井変電所

平成十二年、佐井村・大間町・風間浦村・むつ市の一部が約三時間半に亘つて停電となつた経緯について、東北電力㈱むつ営業所職員から説明を受けた。

停電の原因は、ニホンザルが変電所内に侵入し、白相ブッシング（通称、変圧器）に上ろうとして充電部に接触したことによる漏電と推測される。どこからどのように侵入したかは特定できていないが、侵入防止用フェンスに有刺鉄線を巻きつける、隣接する土地の所有者から許可を得て草木の刈り払いをするなどの対策を講ずることであつた。

約七千戸が長時間電気の供給を受けられなかつたことを重く受け止め、ニホン

ザルに限らず小動物の侵入する可能性のある全ての経路を絶つべきであると要望した。

### ②電気柵の状況

平成九年に設置された農業研修センター前、平成十二年に設置された大佐井糠森地区の電気柵を視察した。

産業建設課によると、電気柵を設置した当初はニホンザルの生態が把握できていなかつたため、電柱や大木に隣接する形で設置しているもの、人とサルとの隔たりをつけるために直線状に設置されたものもあり、十分な効果が得られていないものもある。また、電気柵自体も老朽化している



農業研修センター前の電気柵の状況を視察

### ③県道川内佐井線の延伸

携して電気柵の管理に当たり、被害と苦情をなくすよう努力すべきであると考える。

平成十七年から五ヶ年、二億八千六百八十万円の事業費を費やし完成した、県道川内佐井線の延伸部分は、六月十九日に供用開始

となる。

供用開始に伴い、矢越や牛滝方面へ向かう車の流れが大きく変わるため、漁協が使用する農業者が十分な管理をしていないため漏電し、サルが柵に侵入しやすくなっている所もあることである。

前年の糠森臨港線との交差部が大きくなるため、漁協が事故対策を講ずるよう要望した。

産業建設課と農業者が連

は、六月十九日に供用開始

となる。

供用開始に伴い、矢越や牛滝方面へ向かう車の流れが大きく変わるため、漁協が使用する農業者が十分な管理をしていないため漏電し、サルが柵に侵入しやすくなっている所もあることである。

前年の糠森臨港線との交差部が大きくなるため、漁協が事故対策を講ずるよう要望した。

# 未来への財産～伝承芸能

《その3》

平成20年11月2日に開催された『佐井村郷土芸能発表大会』に出演された古佐井共済会、大佐井青年会のみなさんを紹介します。

登録している会員は六十四人であるが、実際に活動しているのは三十歳から四十歳代を中心とした三十人前後である。四十五歳で退会することが会則で決まっているため、毎年退会はあるが、入会者がいない状態が続いている。地元に会員になる年代の若者が少なくなっていることが原因と思われるため、会員の確保に苦慮している。

我々が受け継いできた年五回の神楽運行、箭根森八幡宮例大祭での山車運行は、次の代、我々の息子たちの代まで残し、彼らにもさらに継承し続けてもらいたいと考えている。

## 古佐井共済会



会長：宮川剛一さん  
会員数：64人

会員数は約七十名。四十五歳をめどに毎年四五名が退会しているうえ、若年層の村外への流出により、会員数は減少傾向にある。

郷土芸能発表大会に合わせて一週間程度、会員が小中学生を指導してきたが、男女問わず大勢が練習に参加してくれるとは、喜ばしい限りである。また、コミュニティ助成事業など、行政が郷土芸能に関する活動を支援してくださることに感謝している。

箭根森八幡宮例大祭での山車運行は、十分な人員が確保できないため、昨年から規模を縮小して行なつている。非常に残念なことではあるが、形を変えても絶やすことなく、今後も継承してきたい。祭典の際は、村内外問わず多くのみなさんに参加していただき、盛り上げてほしいと考えている。

## 大佐井青年会



会長：太田正史さん  
会員数：70人

古佐井共済会・大佐井青年会が活躍する「箭根森八幡宮例大祭」は毎年9月14日～16日です